

# 汎用的教育コンテンツ利用実績紹介フォーム

## 1.利用情報

教育機関名	秋田工業高等専門学校
学部・学科名	電気情報工学科
コース名・講座名等	ソフトウェア工学
対象学年・受講者数	4 年次 41 名 (講座等の履修登録者数を記載してください)
講座実施期間	26年 9月 ~ 27年 2月
利用コンテンツ名 (該当□をプルダウンで■にしてください)	<input type="checkbox"/> プロジェクト型システム開発チーム演習教育コンテンツ
	<input checked="" type="checkbox"/> パーソナルスキル(ロジカルシンキング)養成教育コンテンツ
	<input type="checkbox"/> ソフトウェア開発技法実践的演習教育コンテンツ
	<input type="checkbox"/> 情報セキュリティ実践的教育コンテンツ
	<input type="checkbox"/> 「要求工学を活用した問題発見と情報システムによる解決」実践的教育コンテンツ
コンテンツの利用形態 (該当□をプルダウンで■にし、必要事項をご記入ください)	<b>1.利用したコンテンツ</b>
	<input checked="" type="checkbox"/> ①シラバス
	<input checked="" type="checkbox"/> ②講義スライド
	<input checked="" type="checkbox"/> ③講義ノート
	<input checked="" type="checkbox"/> ④演習課題
	<input type="checkbox"/> ⑤各種設計書
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑥テスト問題と解答例
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦ティーチングガイド
	<input type="checkbox"/> ⑧受講レポート
	<input type="checkbox"/> ⑨ソースコード
	<b>2.コンテンツの利用方法について</b>
	<input checked="" type="checkbox"/> 1.教育コンテンツ全てをそのまま利用
	<input type="checkbox"/> 2.教育コンテンツの一部をそのまま利用
	(利用範囲) _____
<input type="checkbox"/> 3.教育コンテンツを改変して利用	
(改変範囲) _____	

講座の全体構成(シラバス) ※単元ごとの学習項目、講義形態、コンテンツ利用の有無を記す			
	単元と時間配分(1コマ= 90 分で実施)	プルダウンで該当項目を選択してください	
	*短期集中講座の場合は、日単位で結構です	講義形態 (座学、個人演習、チーム演習)	単元ごとのコンテンツ利用の有無
1	ロジカルシンキング概要	チーム演習	有
2	ロジカルシンキングの基本となる思考	チーム演習	有
3	Whatツリーの概要と活用方法	チーム演習	有
4	Whyツリーの概要と活用方法	チーム演習	有
5	Howツリーの概要と活用方法	チーム演習	有
6	ピラミッドストラクチャーの概要と活用方法	チーム演習	有
7	マトリクスの概要と活用方法	チーム演習	有
8	プロセスの概要と活用方法	チーム演習	有
9	問題解決(問題発見)	チーム演習	有
10	問題解決(原因分析)	チーム演習	有
11	問題解決(解決手段検討)	チーム演習	有
12	問題解決の実践(総合演習)	チーム演習	有
13	コミュニケーション(説明/説得)	チーム演習	有
14	コミュニケーション(文書作成)	チーム演習	有
15	コミュニケーションの実践(総合演習)	チーム演習	有
特記事項			

コンテンツ利用の狙い・目的	ロジカルシンキングの概要、基本的な考え方、各種ツールを、講義・事例および演習を通じて理解する。
講座の位置づけ 学生の履修前提条件	ソフトウェア工学の科目内での実施のため、ソフトウェア開発の現場で必要となるであろうスキルの修得を目指す。前提知識・スキルは特に想定していない。
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で取り組む「個人ワーク演習課題」と、チームで取り組む「チーム演習課題」を実施する。</li> <li>・チームは1チーム4～5名程度の複数チーム編成とする。</li> <li>・チーム演習では、「カードブレインストーミング」を活用して実施する。</li> </ul>

## 2. 講座実施後の情報

受講者の感想 (本講座で得られたもの)	議論を踏まえてアイデアを出す方法を演習することができたことは良い経験となった。
教員の評価	就職活動を間もなく控えた学生を対象としていることが理由かもしれないが、演習のシナリオが学生生活動の場合には受講学生のモチベーションが低下している様子が見受けられた。社会に出てからロジカルシンキングがどのように活用できるかに興味があるようだ。一方、シナリオが学生生活動以外の場合には知識・経験の不足から議論を煮詰めるのが難しいようである。
今後の展望 (継続に向けた課題)	学生のモチベーションが高く保たれるよう、シナリオの意義の説明及び知識・経験の不足を補うような議論に対するアドバイスをを行う必要がある。